

ニュースレター

# いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局  
西表森林生態系保全センター  
平成 26 年 3 月 発行 No.40 号



ゴクラクチョウカ

## 仲間川マングローブ林倒壊被害調査を実施（民国合同）

仲間川マングローブ林の倒壊被害の状況について、琉球大学熱帯生物圏研究センターの専門家を招いて竹富町役場と合同調査を1月17日に実施しました。

平成18年9月の台風13号、昨年7月の台風7号などによる影響で、民有地を含め比較的広範囲に倒壊被害が発生しています。このようなことから、今後の被害調査や更新状況調査などの手法を検討することを目的として行ったものです。



## イリオモテヤマネコの交通事故発生防止に関する連絡会議に参加

12月20日(金)に竹富町及び環境省那覇自然環境事務所の主催により「イリオモテヤマネコの交通事故発生防止に関する連絡会議」が開催され所長以下3名が出席しました。

連絡会議は、平成25年のイリオモテヤマネコの交通死亡事故が10月末時点で6件となり過去最悪となったことを受けて、交通事故発生を防止するため、自然保護、道路管理、道路利用等に関連する関係行政機関及び関係団体が実施する対策を効果的に遂行できるように情報共有と連携を図ることを目的として設置されたものです。

この会議に先立ち、10月25日及び11月3日に交通事故防止を呼びかけるチラシ配布にも職員2名が参加しています。



## 「自然環境教育推進のための連絡会」を開催

1月31日(金)、西表島船浦の地域活性化施設(ときめきホール)において、「自然環境教育推進のための連絡会」を開催しました。残念ながら多忙のため、西表島内の各小・中学校の先生方は出席されませんでした。西表島等で自然観察会等の活動を行っている研究機関、行政機関、各種団体等の代表に出席頂き開催しました。

会議では、

- ・マスコミを使ってPRしたらどうか。
- ・各学校の年間行事が決まる前に提案する必要がある。
- ・先生方を呼んで12月頃にプレゼン大会をした方がよい。
- ・個別に学校訪問をした方がいいのではないか。

など、今後の計画等自然環境教育推進に向けての前向きな意見が出されました。

当センターとしては、これらの意見を踏まえ、2月17日、20日に各学校を訪問し、次年度の学校行事が決定する前に連絡会の開催を行い、新年度4月には担当者の名簿を作成・共有し、各機関との連絡がスムーズにいくような仕組み作りについて提案を行いました。今後、西表島における自然環境教育の取り組みが進展するようにしたいと考えています。



## 森の巨人たち百選「ウタラ川のオヒルギ」のモニタリング調査を実施



森の巨人たち百選に選定されているウタラ川のオヒルギのモニタリング調査を1月16日(木)に実施しました。

調査は、光環境の変化、地盤高調査、周辺区域の植生調査などの測定を行いました。

平成18年以降、継続してモニタリング調査を実施してきましたが、特に生育の変化は認められませんでした。超老齢木であるために活性化することは望めないところであり、台風による枝折れやシャコ塚による地盤高対策など、今後如何に維持していくかが重要であるところです。

## 船浦ニッパヤシ群落のモニタリング調査を実施

1月15日(水)に、船浦ニッパヤシ群落においてモニタリング調査を行いました。

調査は、地盤高調査、小葉調査を行い、地盤高の調査では、ニッパヤシの43株の地盤高、定点の地盤高、5mメッシュの地盤高を測定しました。小葉調査では、9月期の調査と比較すると43株中の34株に46本の幼葉が確認できました。全体的に順調に成長していると思われます。



## 平成 25 年度ヒナイ川の利用状況調査 (1 月分) 報告



1 月期ヒナイ川流域における利用状況調査を 10 日（金）に実施しました。この日の利用者は、カヌーツアーが 6 組（ガイド含め 20 名）でした。

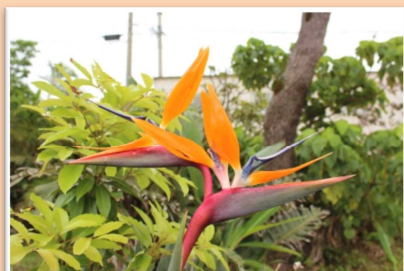
ガイドを除く利用者は男性 5 名、女性 9 名で石垣から 2 名の女性客と、埼玉からドイツの方が一人（ガイド有り）で来られていました。中には、徒歩で来られた方もいました。

当日は、曇り空で少々肌寒い 1 日でしたが、先月よりも利用者は若干増えていました。今後、暖くなるにつれ段々と利用者も多くなることでしょう。

## 竹富町自然保護課と防風林について打合せ

1 月 22 日（水）に竹富町自然保護課と西表島にある竹富町リサイクルセンター周辺の防風林造成に関する打合せを行いました。昨年 7 月の台風 7 号によってフェンスなどが壊れたりするなどの被害が出たことから、被害を軽減する方策はないかとの相談を自然保護課長から受けており、防風林の造成などが有効であるという助言をしていました。

現地では、当センターから防風林造成に関する情報を提供し、海岸から直接吹き付ける強風を防止するために、防風林造成をどのようにしたら良いかということについて検討しました。その結果、竹富町では、竹富町リサイクルセンター周辺に防風林を造成するための具体的な方策などの検討を進め、アダン、モンパノキ、テリハボクなどの郷土樹種を生かした防風林造成を実施することになりました。



ゴクラクチョウカ

別名（ストレチア）

長い花茎の先に鮮やかなオレンジ色の花をつけます。極楽鳥に似ていることから極楽鳥花と呼ばれています。沖縄では切り花として生産農家も多く一般的にストレチアと呼ばれています。南アフリカ原産の高さ 2m くらいになる常緑の多年草です。

# 西表島の似たものの植物

ヤマモモ

vs.

ホルトノキ



区 分	木本類
分 布	本州（関東南部・福井以西）、四国、九州、沖縄等
葉 の 形	被針形
葉 の 縁	全縁、鋸歯
葉 の 先	鋭形

区 分	木本類
分 布	本州（千葉以西）、四国、九州、沖縄
葉 の 形	長楕円形、さかさ被針形
葉 の 縁	鋸歯
葉 の 先	鋭形

葉の種類	単葉
葉の付方	互生
葉の基部	くさび形
実の種類	核果
花・萼色	赤色

葉の種類	単葉
葉の付方	互生
葉の基部	漸尖形
実の種類	核果
花・萼色	白色

**説 明**  
 山地の日当たりの良い山野などに生育し、高さ6-10m、大きいものは20mにもなる常緑の高木です。葉は革質で、長さ5-10cm、幅1.5-3cm、両面とも無毛です。葉の縁は全縁かまばらな小さな鋸歯があり、幼木の葉は荒い鋸歯があります。花は葉腋から穂状花序に咲きます。実は核果で球形、径1.5-2cm、赤く熟し食べられます。

**説 明**  
 低地から山地の林内に生育し、高さ10mの常緑の高木です。樹皮は淡い灰褐色で滑らか、小枝は無毛です。葉は互生し枝先に集まってつき、表面は深緑色、裏面は淡い緑色で被針形、長さ5-12cm、幅1.4-3cmです。古い葉は鮮やかな紅色をしています。花は葉腋から総状花序に白色の花が咲きます。実は長楕円形で、緑色でのちに熟して黒紫色になります。

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内  
 TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kvusvu.kokuvurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

